

医療の現場 #15

I want to know
Medical scene

PICK UP

脳卒中

医療現場の最前線では、日々、多くの医師とさまざまな診療科が連携して治療にあたっています。今回は、脳神経外科の専門医が脳卒中について紹介します。

教えてくれるドクターは…



趣味は
読書です

淡海医療センター 副院長
脳神経外科 部長
つじ あつし
辻 篤司

【専門分野】

脳神経外科全般／脳血管障害／
脳血管外科／脳血管内治療／脳核医学

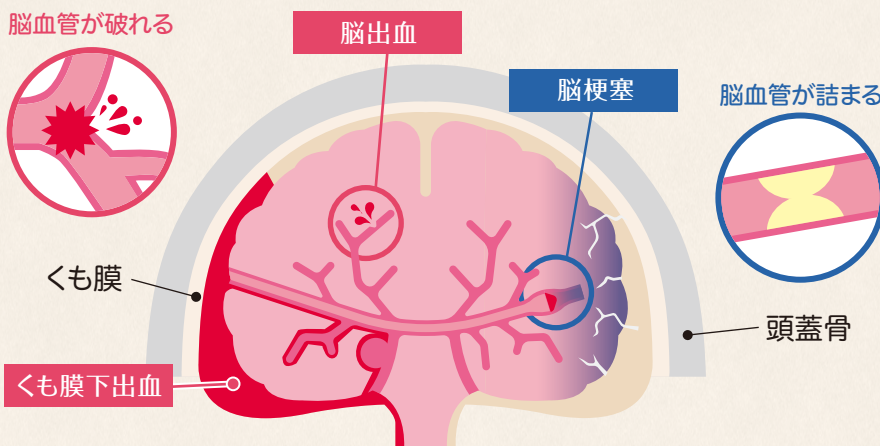
【学会専門医・認定医】

脳神経外科 学会専門医・指導医
脳神経血管内治療学会専門医・指導医
脳卒中学会専門医・指導医
脳卒中の外科学会技術指導医
核医学専門医
PET核医学専門医

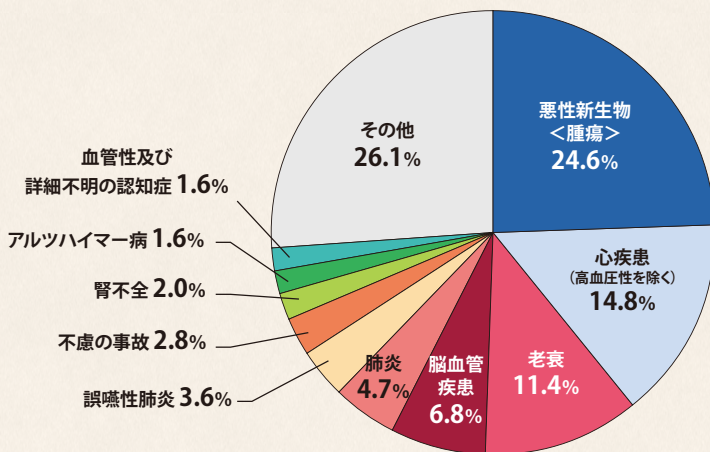
脳卒中とは

脳卒中とは、脳の血管が急に詰まったり破れたりすることにより、脳が障害を受ける病気です。

脳卒中を発症すると、脳の血液循環に障害をきたし、いままで血液によって運ばれていた酸素や栄養が脳細胞に行き渡らなくなります。このことにより脳が障害を受け、急に手足がしびれたり言葉が話せなくなったり、あるいは意識がなくなったりすることがあります。脳卒中は後遺症を残すことが多く、場合によっては死に至ることもあります。脳卒中には、脳の血管が詰まる「脳梗塞」、脳の細い血管が破れる「脳出血」や脳動脈瘤が破裂して脳の表面に出血する「くも膜下出血」があります。



脳卒中は、かつて日本人の死因の1位を占めていましたが、2022年厚生労働省の国民生活基礎調査によると、第1位は悪性新生物(全死亡者に占める割合24.6%)、第2位は心疾患(高血圧性を除く)(同14.8%)、第3位は老衰(同11.4%)、第4位は脳血管疾患(同6.8%)となっています。しかし、これは救急医療の充実や治療法の進歩により、亡くなる患者さんが少なくなったためで、患者数は依然多いのが現状です。



参考：厚生労働省 令和4年(2022)人口動態統計月報年計(概数)の概況

何かへん…おかしいな…

Check sheet もしかして脳卒中？

米国脳卒中協会では、脳卒中を疑う人を見たら、3つのテストACT FAST(アクトファスト)をすることを推奨しています。このテストで1つでもあてはまれば、脳卒中を疑います。

Face フェイス：顔



うまく笑顔が作れますか？
顔の半分が下がる。
顔に歪みがある。笑顔がうまく
つけない。

Arm アーム：腕



両腕を上げたままにできますか？
片方の手に力が入らない。
持っていたものを落とす。
両手を上げたままにできない。

Speech スピーチ：言葉



普段通りの会話ができますか？
言葉が出ない。
呂律が回らない。

これらの症状がどれかひとつでもあれば、症状がでたTime(タイム：時間)を必ず確認して、119番に電話するか一刻も早く病院を受診してください。脳梗塞の場合は1分1秒でも早く治療を開始することが大切です。

119



淡海医療センターの脳血管障害の検査と治療

迅速かつ的確な病態診断を行い効果的で低侵襲な治療を提案・提供します。

当センターでは脳卒中の予防治療に力をいれています。脳ドッグなどで偶然発見された未破裂脳動脈瘤であれば、できるだけ具体的な予後予測を提供し、患者さんとともに最適な治療方法を検討します。フローダイバータースtentを使用した脳血管内治療をはじめ、安全性・根治性に優れ、同時に低侵襲性にも配慮した治療を提案・提供します。また無症候性脳動脈狭窄に対しては脳血流検査を行い、適切な薬物療法や、カテーテル治療を含む外科治療の必要性を慎重に検討します。セカンドオピニオンなど治療のご相談にも対応いたします。詳しくはHPをご覧ください。

脳神経外科外来のご案内 月～金曜日(受付時間 8:30~11:30)

地域に密着した、敷居の低い開かれた診療を目指しています。どのようなことでも構いませんので気軽に相談いただければ幸いです。急なお困りの時やどういったルートで受診すべきかわからないなど、気軽に相談ください。

右記QRを読み取ると
ホームページを
ご覧いただけます。



Column

脳卒中の原因となる 病気と生活習慣

脳卒中を引き起こす病気として、「高血圧」、「糖尿病」、「脂質異常症」、「不整脈(特に心房細動)」があります。脳卒中を起こさないためにはこれらの病気を放置せずに必ず医師の診察を受けてください。

また、病気がなくても生活習慣を改善することが重要です。

禁煙、節酒、適切な運動習慣、塩分摂取を減らし、野菜や果物を増やすなどのバランスの良い食事を規則正しく摂るように心がけましょう。

健康な間は無関心な方が多いですが、普段の血圧を知り、定期検診や人間ドックなどをうまく利用し、自分の身体を把握することが大切です。



脳卒中は寝たきりになる 原因の第1位

脳卒中を含む脳血管疾患は認知症に次いで介護が必要になる要因の第2位となっています。

また、寝たきりとなる要因では脳卒中が第1位となり、認知症、骨折・転倒等が続きます。

特に脳卒中の中でも脳梗塞は、はじめ軽症であつても何度も再発を繰り返して、後遺症が重くなつていく代表的な病気です。一旦脳梗塞を起こすと、ほぼ完治する人は約20%で、73%は何らかの後遺症を残し、死亡する人は7%と報告されています。



脳卒中を疑ったら： 専門医の受診が必要

脳卒中を疑ったら、直ちに119番に電話して救急車を呼んで下さい。脳卒中を起こしたら一刻も早く専門病院での治療を始めることが大切です。CTやMRI等で正確な診断をしてできる限り早く治療を開始するほど、良い治療結果が期待できます。特に脳梗塞では、発症してから数時間以内に治療を開始すれば、症状を回復させ、後遺症を最小限にできる可能性があります。

また、このような症状が数分間で自然に回復してしまったとしても安心はできません。これは「過性脳虚血発作」と言って大きな脳梗塞の発作が起こる前触れであり、重要な危険信号である可能性があります。直ちに専門医を受診してください。